

早稲田大学 社会科学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	例年通り、大問全てが、初めに記述式、後半に語群選択や文章の正誤判定。の形式は大問全てに共通。記述式にはやさしいものが目立つが、正誤判定は手ごわい。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
<input type="checkbox"/>	中国王朝と周辺地域の関係	問3の琉球王国についての記述式空欄補充は難しい。山川の用語集の説明文に「日中両属」の表現があるが、歴史用語としては一般的でない。問題文に「清朝」とあるので「日清両属」を模範解答とした。問5の衛氏朝鮮の建国者は衛満で、燕の人とされる。問6 - aは大局的に見れば正しいともとれるが、山川用語集の「唐を撃退して朝鮮半島の大部分を統一」の表現を尊重して誤りとした。問7 - cは海禁政策緩和が誤り。永楽帝は海禁を継承している。問10 - dは天津が誤り。	難
<input type="checkbox"/>	遠隔地交易と物質文明の転換	問1の絹馬貿易は漢～唐時代の塞外貿易の基本。これが宋代になると茶馬貿易となる。問4 - dのソグド人はイラン系が正しい。eの扶南の首都オケオも誤り。扶南の都候補はアンコール＝ボレイ遺跡と推定されており、オケオはその外港というのが定説。問5のリヨン細かいが山川用語集の説明文には出ている。リヨンでは七月王政下の1831年に絹織物工の反乱も有名。問6のdのガゼーリーはスンナ派の神学者。問8の第6回は遠征中にアイユーブ朝からマムルーク朝に代っている。第7回は最初からチュニス攻撃したが、王の病死で失敗におわった。チュニスはマムルーク朝の勢力圏外であり、問題文の「マムルーク朝を攻撃したが失敗」には当たらない。問10 - aはアイルランドではなくアメリカが正しい。bの白濠主義撤廃は1973年。cはシドニーではなくキャンベラが正しい。dはマオリ人ではなくアボリジニー。マオリはニュージーランドの先住民。eのタスマンはオランダ人。	難

番号	出題内容	コメント	難易度
<input type="checkbox"/>	フランス革命とその後のヨーロッパ世界	記述式の3問はやさしい。問4のエジプト遠征がらみの対仏大同盟は第2回で1799年のこと。問5-dのランケの『世界史』は1881~87年、つまりドイツ帝国時代の刊行。問8・問9の年代配列は政経学部の問題に類似。問8はパリ条約がわかれば正解に直結。	標準
<input type="checkbox"/>	19世紀後半から1920年代にかけての世界の一体化	問4-cのペニシリンは1928年に英のフレミングによって発見された。抗生物質で細菌性感染症の治療に絶大な効果を発揮する。問5-bのアルゼンチンの対英穀物輸出拡大は、1857年以降に主として英資本によって建設された鉄道網の発達による。問7-aのクーベルタンは仏の教育者。dの第1回ノーベル平和賞はデュナンとフレデリック=パシー(国際仲裁委員会の提唱者)でナイティンゲールは間違い。eは李太王が謝りで高宗が正しい。李太王は、1910年の日韓併合後に日本の皇族として待遇されるようになってからの呼称。問10のブラジル移民第1回は1908年。	難

〔総合コメント〕

正誤判定のポイントが非常に細かい。今年はとくに、山川出版社の『世界史B用語集』の説明文から直接出題されたと思われる箇所が目立った。同社の用語集をバイブルのようにひたすら読み返した人は結構いい思いをしたのではないかと感じる。また、に正解が2あるものと、正解がないものがあり、出題はやや粗雑さを感じさせる。問題文も洗練さを欠くだけでなく、文意に不明瞭なものもいくつかある。ただ、試験問題に文句を言えないのが受験生の宿命。問題がどうあろうと、ひたすら高得点だけをねらっていくてはならない。まずは用語集の徹底的読み込みたい。文化史も毎年出題されているので滞欧は怠りないように。とくにロマン派・古典派といった分類と文化史関連人物の活躍した時代に注意を払いたい。年代配列問題は出題パターンが政経学部に類似しているので、そちらの過去問も目を通しておきたい。